東京女子医科大学看護系同窓会会報 VOL.24

発行年月日　2024 年 10 月 15 日
発　　刊　東京女子医科大学看護系同窓会事務局
〒162-8666　東京都新宿区河田町 8-1
東京女子医科大学巴女子学生会館 2 階
office@twmu-nursing-aa.jp



東京女子医科大学彌生記念教育棟



東京女子医科大学看護専門学校

目　次

●表　紙
●会長挨拶・役員募集 …… 1
●新任病院長・看護学部長ご挨拶 …… 2
●特集：第 24 回看護系同窓会定例総会報告 …… 3・4
●総会後記 …… 4
●学生生活紹介　看護専門学校 …… 5
●看護学部　救急☆レンジャー部紹介 …… 6
●掲示板・編集後記

会 長 挨 拶



東京女子医科大学看護系同窓会
会長　武田　智子（短大５回生、専攻科３回生）

清秋の頃、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

第24回東京女子医科大学看護系同窓会定例総会におきましては、皆様にはご多忙の中ご出席いただき、誠にありがとうございました。

今回は例年の弥生記念講堂から附属足立医療センターに会場を移し、210名の方にご参加いただき、盛大に開催することができました。これもひとえに、内潟安子病院長兼看護専門学校学校長をはじめ木所篤子看護部長、情報システム部の皆様などの多大なご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本会の第８期テーマは、あなたのそばに同窓会「みえる、つながる、ひろがる」です。このキャッチフレーズは、同窓生の皆様が、看護の現場で活躍する姿が見えること、そして、同窓会を通じて互いにつながり、看護の発展に貢献していくことを意味しています。そこで、災害拠点病院である附属足立医療センター災害チームの協力を得て、本会の活動を会員・学生会員に広く認知してもらうことを目的として企画をいたしました。

特別企画としては、施設見学ツアーを開催し、90歳を超える中重先生、大河原先生、看護学部名誉教授の尾岸先生や医療現場で長年活躍されていた同窓生にご参加いただきました。ヘリポート、最新機器が整ったICU　HCU　SCUや救命ICUなどを見学され、スタッフ・見学者双方の表情は大変輝いており、新病院の素晴らしさを感じることができました。

学生参加型演習形式で行われた一次トリアージの企画では、看護学部の救急☆レンジャー部に模擬患者役を担ってもらうとともに、看護専門学校生と学校関係者の方々にも多大な協力をいただき、140名を超える学生が参加してくれたことは大きな成果でした。このような形で学生と交流できたことは、今後の同窓会活動にとって大きな一歩となりました。学校間の交流、学年交流、同窓生と学生会員の交流も活発に行われ、同窓生の輪がさらに広がったと感じています。盛況のうちに閉幕することができ、私も大変うれしく思いました。

第７期から会長を拝命し、早６年が経ち、第８期会長としての任期も残り８か月を切りました。この間、本会は「東京女子医科大学と本会、本会と会員、会員活動（臨床・教育・研究・社会貢献等）の「共同・協力関係」の拡大」を目標に、同窓会の発展と会員とのつながりを深める活動に尽力してまいりました。

コロナ禍においてこれまでの活動を見直し、時代に即した同窓会活動として、総会の事前表決導入、本会ホームページ・会報誌の刷新、リモート会議導入、ペーパーレス化など様々な改革をしてまいりました。特に、メール配信システムの導入により、効率的な情報発信が可能となり、開封率は80%以上に達しました。さらに、皆様に配信される情報まで閲覧していただき、同窓会の活動にご参加いただけますようお願い申し上げます。

任期交代の時期が迫っております。皆様にぜひ積極的に役員への立候補をご検討いただき、次期会長をはじめ役員一丸となって、同窓会が更に発展していくことを期待しております。

残りわずかの任期ではございますが、全力を尽くしてまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、現在、ご心配をいただいております東京女子医科大学の現状につきましては、大学ホームページに情報が掲載されております。本会は、東京女子医科大学がこの困難を乗り越え、より一層発展していくこと願っております。

末筆ながら、未曾有の大災害に見舞われた地域の方々へ、心よりお見舞い申し上げます。被災された皆様が一日も早く、安心して暮らせる日々が戻ることを心からお祈りいたします。

第９期同窓会役員募集　任期開始2025年６月28日～

第８期の理事13名の任期満了に伴い、第９期の同窓会役員を広く募集しております。
活動内容は、会員相互の啓発と親睦を図り、看護専門職者として看護の発展と社会に貢献すると共に、東京女子医科大学の看護の発展に寄与することを目的とし、毎年定例総会開催や会報発行、学生や同窓生の支援などを行う。同窓会の会則や活動内容はホームページをご参照ください。
自薦・他薦は問いません。本会活動に興味や関心がある方は、下記または、ホームページ「お問い合わせ」より、ご連絡をお持ちしております。
なお、８期役員からお声をかけさせていただきますので、ご検討くださいますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

◆９期任期期間：2025年６月28日～2028年６月総会まで
◆募集人員　［理事］13名、［代議員］８名、［監事］２名
《問い合わせ先》東京女子医科大学看護系同窓会事務局　office@twmu-nursing-aa.jp

東京女子医科大学病院 病院長 就任ご挨拶



東京女子医科大学病院
病院長　肥塚　直美

2024年4月に東京女子医科大学病院長を拝命いたしました。

皆様方には、病院の運営にご支援ご協力をいただいており、深く感謝いたします。

東京女子医科大学病院は、建学の精神「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」と理念「至誠と愛」のもと、1908年の開院以来、質の高い安全な医療の提供と、次代を担う医療人の育成に努めてきました。

東京女子医科大学の理念は、「至誠と愛」（きわめて誠実であること、慈しむ心（愛）であり、この理念「至誠と愛」は教育・研究・診療の総ての場において求められています。本学の理念に従って、附属病院も運営され、その伝統は先人から脈々と引き継がれ現在に至っています。

本院病院長として、先ず、現場に足を運び、現場の声を聴き、調査と分析を行い、問題解決をはかり、病院運営を行いたいと思います。そして、医療の原点に立ち戻り、安全で安心な患者さんファーストの医療を行い、令和6年4月から始まった働き方改革を推進し、職員が働きやすい環境を構築するとともに、女性医療人の上位職への登用に努めてまいります。施設、診療、研究、教育の全領域において法人と協働し安全と安心を最優先する文化の醸成し、さらに、組織改革　すなわち、組織に横ぐしを入れること、さらに時代の変化・社会情勢に対応することが重要と考えています。令和6年4月に受審いたしました病院機能評価では、高い評価をいただくことができました。日々のチーム医療実践を評価いただけたこと、スタッフの頑張りを誇りに思います。

当院では、最新の内科治療のほか、手術件数は年間8,000件を超え、低侵襲手術やロボットを用いた手術件数も多く高度な医療を提供しています。高度で適切な治療を提供するために約50の診療科があります。そのすべての医療現場で、看護職の皆様の献身的かつ確実な手技で支えてくださっていることに敬意を表します。

結びになりますが、東京女子医科大学看護系同窓会の皆様方そして関係の方々の今後益々のご健勝とご多幸を祈念いたします。

（追記）

本学の不祥事につきまして、大変なご心配をおかけしておりますことを心よりお詫び申しあげます。

8月7日の臨時理事会において岩本絹子理事長の解任が決議され、岩本理事長の解任に伴い、新体制成立までの暫定期間における措置として肥塚が理事長として選任されました。7月31日に第三者委員会から調査報告書を拝受し、第三者委員会からご指摘を重く受け止め、真摯な対応が必須であることを強く認識しております。現在、第三者委員会からの提言に則り、立ち上げました「新生東京女子医科大学のための諮問委員会」のご意見を頂きながら、経営体制の構築を行うこと、新体制への移行をスムーズに行うとともに、健全な法人運営を行っていけるように大学として努めていく所存です。尚、本院を含め本学附属医療施設での診療を含め、研究、教育活動は粛々と行われております。

皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。（9月27日記）

東京女子医科大学 看護学部長 就任ご挨拶



東京女子医科大学看護学部
看護学部長　吉武 久美子

2024年4月より、このたび東京女子医科大学看護学部長を拝命いたしました、吉武久美子と申します。就任の際には、すばらしい胡蝶蘭のお祝いを頂戴いたしまして、心より感謝申し上げます。お花に感銘するとともに、新たに看護学部長に就任したことへの重責を感じ、身の引き締まる思いでございます。

皆様には、平素より、看護学部・看護学研究科の学生さんたちのために、入学生・卒業生・修了生へのエールを込めた記念品の贈呈など、多大なご支援をいただいておりますこと、深く御礼申し上げます。

私は、東京女子医科大学看護学部 看護職生涯発達学の教授として2018年4月に着任をして、今年で7年目を迎えます。看護倫理、意思決定・合意形成看護職能力開発などをテーマに研究・教育に従事しています。学部生には本学の理念「至誠と愛」と建学の精神について教授し、医学部看護学部協働で社会規範教育を行うとともに、「キャリア発達論」では、自己省察やキャリアを展望することの大切さを教育しています。臨床の看護職の皆様には、合意形成を取り入れた看護倫理教育を実践させていただいております。さらに、大学院教育、認定看護管理教育などで、学外でも看護倫理と合意形成に関する実践的な教育を展開しています。

本学看護学部は、学部創立27周年を迎えて、これまで多くの卒業生を輩出してきました。伝統ある本学の看護教育を担う看護学部長の重みを感じるとともに、他方で「至誠と愛」を実践し、社会で活躍する女性医人を育成する機会に携われることに喜びをも感じています。不慣れで未熟な部分も多々ございますが、皆様からのご指導・ご鞭撻を賜りながら、本学の今後の発展に邁進する所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

特集：第24回東京女子医科大学看護系同窓会定例総会

未来につなげる ひろげる 支援の輪 ～災害看護を考える～

2024年6月29日(土)　附属足立医療センター大講堂

プログラム
＜特別企画＞施設見学ツアー
＜第１部＞総会
1. 前年度事業報告及び今年度事業報告
2. 2024年度決算報告監査報告
3. 2024年度予算報告
4. 審議事項報告・事前評決結果報告

＜第２部＞
附属足立医療センター災害チーム協力企画
1. 区東北部の防災・災害対策」
　足立医療センターの役割
2. 災害活動報告
3. 演習「一次トリアージ法の習得」



施設見学ツアー

特別講演

「区東北部の防災・災害対策」



講師：救命救急センター長・救急医療科部長　庄古 知久 教授

足立医療センターは東京都の区東北部医療圏にあり、医療圏唯一の３次救急病院である。３次救急の受入れ件数は毎年上位であり、人口約130万人エリアを支える地域中核施設として大きな役割を担っている。

【足立医療センターの役割】

当センターは都内10施設に指定された災害拠点中核病院であり、医療圏内の６つの災害拠点病院を支え、リードしていく使命がある。東京DMAT指定病院であり、地域周産期母子医療センターでもある。社会が改めて認め、看護職の処遇改善にもつながった看護に対する価値である。

【地震対策】

当エリアは都心南部直下地震において甚大な被害が生じるとされている。建物全壊が約２万棟、死者が約1,300人、重傷者が約2,200人の想定である。特に重傷者の原因の２割が火災とされ、約500人の重症熱傷患者が発生する。熱傷患者のトリアージは全身熱傷面積合計（TBSA）を用い、15～30%以上は災害拠点病院へ転送すべきである。熱傷学会のレジストリーによると、熱傷入院患者の22.9%に気道損傷ありとされ、災害拠点病院はこの対応にも迫られる。

【水害対策】

荒川の洪水による浸水想定地域の病院の入院患者や福祉施設の入所者の避難者数は３万人と見積もられている。行政は水害の事前に動き出すための「水害タイムライン」を制定している。氾濫想定時間を０時とし、そこから逆算時間ごとの行動指針を荒川の水位に合わせて決めている。当センターもこの「水害タイムライン」をいち早く取り入れた。病院の重要設備は２階以上に配置する水害対応になっている。水陸両用車を整備しており、病院周囲が水没した際も職員や緊急物資を搬送できる。

【NBC（核・生物・化学兵器）対策】

2020年に当教室で開発導入した「NBC対応救急車」を整備し、NBCテロ対策訓練を毎年実施している。NBCテロの際は病院でのPAT法による二次トリアージが必要である。

【災害医療への誘い】

救急情報のデジタル化を進めており、災害時もIoT（Internet of Things）を活用していく。病院防災訓練でもデジタルホワイトボードやGoogleドライブを積極活用している。DMATの活動も積極的に参加しており、災害医療の実践と普及、教育に努めている。女子医大の全ての看護師が災害医療で活躍できるように、災害医療の正しい知識と応急手当ての能力を得られるように情報発信していく。エキスパートを目指すナースの方は足立医療センター救命救急に、是非。

事前表決結果報告

	案会方法	発送数	投票数	投票率
在校生	メール	620	513	83%
現役校卒業生	メール	971	272	11%
	官製はがき	1,472		
旧同窓会員／大学院	メール	242	358	16%
	郵　送	1,928		
total		5,233	1,143	22%

- 投票率：22%（昨年：20%）2%増加
- 学生会員の投票率：83%（昨年：77%）6%増加
- 卒業生の投票率：13.6%（昨年：12.5%）1%増加
- 卒業生メール配信数：1,213件（昨年：990）223件増加ご協力に感謝いたします。
- 卒業生の方々へ投票率30%を目指しています。1回/年の毎年同じ時期に行いますので、ご協力お願いいたします。

東京女子医科大学看護系同窓会会則
第４章　会議および総会　会則_会員　第14条
2. 総会は、正会員および学生会員の出席人員より成立する。
3. 議事は出席者の過半数により決定する。可否同数の時は、議長の決するところによるものとする。

表決事項	賛成	反対※1	無効※2
第１号議案2023年度事業報告	1134	1	8
第２号議案 2023年度決算報告	1136	2	5
第３号議案 特別会員の承認	1134	3	6
第４号議案 25周年記念＆総会開催形式	1136	0	7
第４号議案 2024年度事業案	1133	0	10
第５号議案 2024年度予算案	1136	0	7

※1　反対の事由記載はなかった
※2　無効；表決を選択し、各議案が空欄、賛成反対の両方に☑がついていたもの

第１号～第６号議案ともに賛成多数で可決

会員数　2024年９月現在

分類	学校名		登録者数注1	連絡可能数注2
A	1965年以前の女子医科大学看護系学校		135	59
B	附属高等専門学校→附属看護専門学校		1,169	482
C	短期大学および専攻科		2,227	1,084
D	附属属第二高等看護学校→附属第二看護専門学校		1,067	432
E	看護専門学校	正会員	2,138	1,200
		学生会員	242	242
F	看護学部	正会員	2,087	1,211
		学生会員	362	362
G	大学院	正会員	182	136
		学生会員	16	16
合計			9,625	5,224

注1) 延べ数　注2) 実数　✤特別会員　６名　✤賛助会員　22名

※看護専門学校・看護学部の卒業生連絡先不明者リスト更新をいたしました。本会ホームページ【会員専用】より参照ください。

災害活動報告



「東京 DMAT の活動」

赤池　麻奈美
（附属足立医療センター 救急看護認定看護師）

今回、同窓会で発表させていただくのは2回目になります。前回は東日本大震災での活動を報告させていただきました。12年前に本院から現在の足立医療センターに異動となり、今回もまた災害に関するお話をさせていただけて光栄です。

東京DMATは2004年に発足し、今年で20周年を迎えます。足立医療センターは2005年に、本院は2009年に東京DMAT指定病院に認定されました。国内外に類のない東京DMATは東京消防庁と協働し、都民の命を救い守ることに誇りを持って日々活動しています。

数年前からインストラクターも務め、隊員養成にあたり、今後の東京DMATの在り方について検討しています。過去の経験を教訓に、これからも東京DMAT隊員として、活動していきたいと思っています。（看専5回生）



「トルコ大地震での活動」

岩﨑　恵
（附属足立医療センター　救急救命士）

2023年2月6日に発生したトルコ南部地震に対し、国際緊急援助隊医療チームの一員として派遣され、その活動についてご報告いたしました。全国から派遣された延べ181人の隊員が、field hospitalを展開し、約2,000人の被災者を診療いたしました。外来診療、手術、入院患者ケア、さらにはミッションマネジメントまで、チームにおける看護師の活躍も伝えられたと思います。本発表を通して、国際緊急援助隊医療チームの活動を知っていただく機会となり、大変嬉しく思います。今後も、国内外での様々な災害に対して貢献していきたいと考えています。

皆様のご多幸と東京女子医科大学看護系同窓会の益々のご発展を祈念しております。



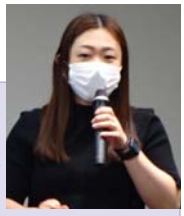
「能登半島地震での活動」

渡辺　真紀
（附属足立医療センター　救命ICU看護師）

2024年1月12日、当院DMATカーにて医師2名、看護師2名、救急救命士1名のチームで石川県輪島市へ現地入りしました。急性期が過ぎていたので、避難所や施設を中心に活動を行いました。初めてのDMAT活動で不安でしたが、日頃から連携の取れているチームメンバーのおかげで、高齢者施設入所者のメディカルチェックや、自宅療養中の患者の搬送など、円滑に任務を遂行することができました。特に、高齢者の方々の健康状態を把握し、避難時の安全確保に貢献できたことは大きな経験となりました。今回の活動を通して、災害時の医療支援の重要性とチームワークの大切さを改めて認識しました。（看専12回生）

演習企画
「誰でもできるトリアージ法の修得」

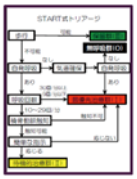
講師　斎藤　静香
（附属足立医療センター　救急看護認定看護師）



特に、トリアージは、多数の傷病者を迅速に緊急度・重症度を評価し、治療の優先順位を決める手法です。1次トリアージ(START法)は、傷病者数が医療従事者よりも圧倒的に上回る場面において、歩行の可否や生理学的評価によって30秒以内に迅速に分類する方法です。

今回の演習では看護学部・看護専門学校の学生の皆様に模擬患者としてご協力いただき、START法を実施しました。参加者からは「イメージができた」、「迅速で的確な判断が大切になると感じた」との感想が寄せられました。未来のナースである学生の皆様は災害発生時には大切なリソースです。今回の演習で得た知識を災害発生時に活用していただきたいと思います。











発表者資料＆動画は
ホームページ_会員専用
「PW：twmu2024」
総会資料をご覧ください

会員専用

総会後記

今回の総会では、役員の多くが災害医療経験者であることを活かし、企画を病院の災害チームと連携して、大規模災害発生時の対応をテーマとした学生参加型の演習を取り入れた新たな試みを実施いたしました。演習では、140名の学生が熱心にトリアージに取り組み、災害時の看護の重要性を理解しました。また、災害チームの専門家による講義では、大規模災害発生時の現場の状況や地域住民への支援活動について、生の声を聞くことができ、参加者全員にとって貴重な学びの機会となりました。

災害現場では、状況を正確に把握し（みえる）、関係機関と連携して迅速に対応すること（つながる）、そして、地域住民に安心感を与えること（ひろがる）が求められます。今回の企画を通して、参加者全員がこれらの重要性を再認識し、今後の看護実践に活かしていくことを期待しています。

参加者からは、「災害時の対応について改めて考えるきっかけとなった」など、温かい感想が多数寄せられました。本会が、大規模災害に備え、看護師として何ができるのかを考え、実践力を高めるきっかけに貢献できたことを実感いたしました。また、今期のテーマである「みえる、つながる、ひろがる」の具現化につながったと感じています。

【第24回定例総会担当理事　中村　邦子（短大28回生）】

新型コロナ５類移行後の学生活動紹介

１年間に助成した学生活動

1. 2023年11月　学校祭
2. 2023年12月　ハンドベル演奏会
3. 2024年4月　新入生歓迎会（体育祭）

2023年度は看護専門学校の活動申請3件に対して各5万円助成をいたしました。看護学部からの申請はありませんでした。

学校祭報告　福嶋 悠香

2023年11月18日、本校の学校祭「N祭」を開催しました。コロナ禍以降初めて来場者を招いての開催となりましたが、本校の学生、教職員を中心に運営を行い、学生保護者と来年度入学希望者を含む100名の方が来場され、多くの方々にご参加いただきました。

足立区に移転後、地域との交流が深まっていなかったため、今回のN祭を機に、地域との連携を強化したいと考えました。学校近くの焼き芋屋さんや就労継続支援施設から商品を仕入れ、販売を行いました。また、バイタルサイン測定や一次救命処置の体験コーナーを設置し、来場者との交流を深めました。このほかにも、５つの企画を実施し、来年度の開催につながる有意義な一日にすることができました。





ハンドベル演奏会　冨田 亜友子

コロナ禍で中断していた病院での福祉活動が、この度再開できたことを大変嬉しく思います。半年以上の準備期間を経て、外来でのハンドベル演奏会を開催し、病棟の患者さんにはクリスマスカードを配布いたしました。

特に、小児患者さんには、季節感をより一層感じていただけるよう、サンタクロースの折り紙を添えたクリスマスカードをご用意いたしました。演奏会では、クリスマスソングやディズニーソング、歌謡曲など、幅広い世代の方々に楽しんでいただけるよう、様々な曲を演奏いたしました。

日頃お世話になっている病院スタッフの皆様にも、演奏を通して日頃の感謝の気持ちを伝えることができ、温かい雰囲気の中で演奏会を終えることができました。学生同士が協力し合い、企画・運営した今回の演奏会は、患者さんやスタッフの皆様に笑顔と癒しを提供できたと確信しております。

会場には、演奏に足を止めて聴き入っていただける患者さんやスタッフの明るい表情があふれ、心温まる空間となりました。









新入生歓迎会　松原 千絵

2024年4月19日、新入生歓迎会として体育祭を開催いたしました。本体育祭は、新入生を同じ目標を目指す仲間として歓迎するとともに、他学年との交流を深めることを目的として企画されました。

学年ごとの競技に加え、学年混合競技として、ドッジボール、大玉転がし、リレーを実施しました。学年を超えた協力体制が築かれ、一体感を深める貴重な機会となりました。企画立案から運営まで、準備に追われる日々でしたが、無事に終えられた時の達成感は格別でした。特に、仲間と協力し合い、一つの目標に向かって努力した経験は、私たちにとって大きな財産となりました。

今回の開催にあたり、先生方や学生の皆様をはじめ、多くの方々のご協力、そして同窓会からのご支援に心より感謝申し上げます。委員会の力だけでは成し遂げられなかったことだと改めて感じ、みんなで力を合わせて作り上げたことの大切さを学びました。来年度も、より多くの新入生が楽しめる企画を導入し、本体育祭がますます発展するよう、委員会一同尽力してまいります。



看護学部 ～ NS戦隊★救急レンジャー ～

看護学部の学生は部活動、看護専門学校は自治会活動に参加をしています。
今回は看護学部の部活動である「NS戦隊★救急レンジャー」の活動を紹介します。

顧問　柏﨑　郁子

看護学部の部活動『NS戦隊★救急レンジャー』の顧問を2023年度より引き継ぎました。コロナ禍の影響で活動が自粛されていたため、部員たちは先輩たちの活発な活動を知らないままスタートすることとなりました。しかし、同年には女子医大祭でのポスター展示など、少しずつ活動の輪を広げてきました。

今年度は新入部員も増え、部員数は約40名と活気あふれる状態です。6月29日には、附属足立医療センターで開催された看護系同窓会定例総会のイベントに部員たちが参加し、模擬患者として災害時トリアージ訓練を体験しました。現場のスペシャリストの講演や、専門学校の学生との交流を通じて、災害看護の知識と技術を深め、大きな刺激を受けたようです。

今後は、一次救命処置の研修やボランティア活動など、幅広い活動を通じて、学生たちは大きく成長することが期待されます。

部　長　香村美桜里
副部長　小林　里瑳

NS戦隊★救急レンジャーは、2011年に起きた東日本大震災をきっかけに、“自分にできることを増やし、命に繋がる小さな行動をとることができる人になろう”という思いから創設されました。この引き継がれた思いをもとに、災害医療や一次救命処置についての理解を深め、実技練習を行ってきました。

同窓会定例総会に参加し、大規模災害時の医療体制、トリアージ訓練を学びました。多様な状況を想定したトリアージ訓練を通して、災害時の医療の複雑さや、一人ひとりの判断の重要性を改めて認識しました。特に、チームで協力し合いながら迅速に対応する必要性を感じ、日頃の部活動でも、仲間と協力し、互いの意見を尊重しながら活動に取り組むことの大切さを学びました。

忙しい看護学生生活の中でも、救急サークルに所属することで、同学年の仲間だけでなく、先輩や後輩とのつながりを深めることができます。授業や課題に関する相談はもちろん、将来の進路について話し合うなど、互いを高め合える存在となっています。部活動に時間を費やすことは大変ですが、得られるものは大きく、私にとってかけがえのない経験となっています。

全員でお揃いのスクラブ“カッコイイ“と思いませんか！



スクラブの後ろは創部時から引き継がれたデザインです



学部卒同窓会理事と共に



トリアージ訓練の前には傷病者役の練習をしました

部員募集中です!!
ぜひ一緒に活動しましょう！

現在でもレンジャーの活動が続いていることを大変嬉しく、このページを担当することに深く感慨を覚えました。

日々の活動の中で「臨床の現場で働く看護師の視点・臨床における知を学ぶ機会が欲しい」と感じ、就職後は創部に関わった同期や後輩と共に、2016、19、20年と学部生を対象とした交流会を行ってきました。コロナ禍以降は難しくなってしまいましたが、今回の同窓会定例総会をきっかけに新たな交流が生まれ、また発展していくことを期待しています。

初代部長 秋山 直美（看護学部13回生、8期理事）

〈新設〉令和５年度卒業生より看護系同窓会賞授与

本賞は、看護学部・看護専門学校の卒業予定者の中から、学業成績・人物ともに優秀で、同窓会活動に貢献または協力する者各校１名に対し授与します。今回初めて卒業式に賞状と記念品を贈呈いたしました。



看護学部23回生　中水　風音 様

この度は表彰していただきありがとうございました。在学中は、様々な経験を積まれた先輩方と交流ができ、たくさんのご支援をいただきました。今後も同窓会会員として女子医大に関わることができたら嬉しいです。



看護専門学校27回生　竹澤　朝美 様

この度は同窓会賞をいただきお礼申し上げます。一重に先生方や多くの仲間たちに支えられたからこそだと存じます。現在は、足立医療センターにて日々奮闘しておりますが、この受賞を励みに、より一層の努力を重ねて精進してまいります。

大分県オオハタパール
アヤコパール7.5mm
のネックレスを贈呈



★☆★郵便料金値上げに伴い送料削減のため、メール登録をお願いします★☆★

本会では、ご案内（総会のお知らせ・会報etc.）を**ペーパーレス化・業務効率・コスト削減**の3つの観点から、**メール配信に変更**いただけますよう、ご協力お願いしております。
ホームページ≪住所変更届≫または左記のQRコードより、ご登録をお願いいたします。

連絡変更届

住所届けのお願い

お知らせや会報など円滑にお届けできるよう、住所・メールアドレスなど変更された方は、速やかにご連絡をお願いいたします。
なお、ご登録情報に不備が目立っておりますので、正確にご登録をお願いいたします。
※看護学部・看護研究科・看護専門学校は、ご登録情報および連絡先不達情報の共有をいたしております。

掲　示　板

※下線部分はハイパーリンク、ポスタークリックにて拡大

❑ 東京女子医科大学看護系同窓会定例総会 第25回開催ご案内

日　程：2025年6月28日(土)
会　場：河田町予定　＊対面開催
第一部：総会　12:30～
第二部：研究助成受領者報告　13:45～
特別講演：立正大学大学院
心理学研究科教授　古屋 健先生
詳細定次第ホームページに詳細を掲載いたします

❑ 同窓会オリジナルグッズ販売

ホームページ【グッズ販売】からお申込みください



紺ユーティリティバック A3縦	600円
ワインレッドユバック　M	500円
クリアファイル_7色	30円
ポストイット_ピンク50枚綴り	200円
ナースウオッチ	時期により価格変動

❑ ホームページへ写真館掲載記事・写真募集

母校ゆかりの懐かしい写真や思い出の品、エピソードを募集しています
ご寄贈いただける方は、ホームページ「お問い合わせ」からご連絡ください
【会員専用PW：twmu2024】✤毎年変更

❑ 研究助成　2025年度募集

2025年2月5日～4月14日予定
応募要領：ホームページ　各種助成「研究助成」参照

❑ 第66回日本母性衛生学会　学術集会

会　期：2025年10月10日(金) 11日(土)
会　場：京王プラザホテル（新宿区）
大会長：小川 久貴子
（前東京女子医科大学看護学部長）
テーマ：「母性衛生が拓く母子の笑顔」
※大会抄録等への広告や寄付募集中
学術集会事務局：東京女子医科大学看護学部
実行委員長　飯塚 幸恵



❑ 東京女子医科大学看護学会 第21回学術集会のご案内

日　程：2025年10月4日（土）
会　場：弥生記念講堂ほか　＊対面開催
大会長：濱田 由紀（東京女子医科大学看護学部教授）
テーマ：「現代におけるリアルなケアの価値：ケアの場を対話で拓く」
日々のリアルなケアの実感をもとにケアの価値について、皆さまと考えてみたいと思います。ご参加お待ちしています！
＊詳細は看護学会ホームページをご覧ください（準備中）

❑ 東京女子医科大学職員募集（正職員・臨時職員）

看護師・診療看護師・助産師募集
「領域は希望に沿います」
「勤務時間・勤務地要相談」
※ポスター・QRコード参照

お問い合わせ先
看護師雇用対策チーム
☎　03-5269-7462
✉　recruit-nurse.bm@twmu.ac.jp



❑ 東京女子医科大学法人寄付金のお願い

寄付の種類
創立120周年募金125周年に向けてのご寄付
遺贈による寄付、大学環境整備等へのご寄付
各種寄付金詳細　etc.
※詳細はQRコードよりご確認ください

❑ 東京女子医科大学看護専門学校教員募集

教育に興味関心のある方からのご連絡をお待ちしています
- 経験・専門領域、希望を配慮した業務
- 教育未経験者へのフォロー
- 1学年3人体制、柔軟に対応
- 65歳まで正職員での常勤可能

お気軽にお問い合わせください
Jimu.cf@twmu.ac.jp
03-3857-0120



❑ 東京女子医科大学大学院看護学研究科募集のご案内

応募期間　第1期：7月頃、第2期：12月頃
詳細はQRコードよりご確認ください。

❑ 東京女子医科大学図書館利用ご案内

学外同窓会員の利用時には、**本会会員証が必要**です。会員証をお持ちでない方は、**ホームページ「お問い合わせ」**より、タイトル「会員証発行依頼」、氏名（現姓・旧姓）・生年月日・卒業学校名・卒年（ご不明な場合は不要）を記載の上、お申込みください。ご利用の際は、図書館HPをご確認のうえご利用ください。

❑ 東京女子医科大学看護学会入会のご案内

本会は、会員の相互の学術的研鑽と交流を図り、看護学の発展を目指すことを目的としています。本学会の発展にお力添えをお願いするとともに、皆様のご入会を心よりお待ちしております

編集後記

会報誌24号をお読みいただきありがとうございます。広報担当もリモート会議を中心にしながら、世代間の意見を交わせる環境にある同窓会活動の良さを感じております。今回は附属足立医療センターでの総会や、学生の活動を紹介した特集記事を作成いたしました。
総会では、トリアージの模擬患者役の指導にあたり、先輩の迫真の演技に刺激され、指導者側も学生さんも負けじと熱が入り、看護の熱が伝播していく様子を感じました。これらの機会を通し、後輩の頼もしい姿に未来を感じられたことを何よりも嬉しく思いました。これらの熱気が会報誌やホームページから皆様に伝われば幸いです。末尾になりましたが、今回ご協力いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。
【会報誌プロジェクトメンバー】